

さいたま市文化財時報

かや
 榎りぼーと
 第53号

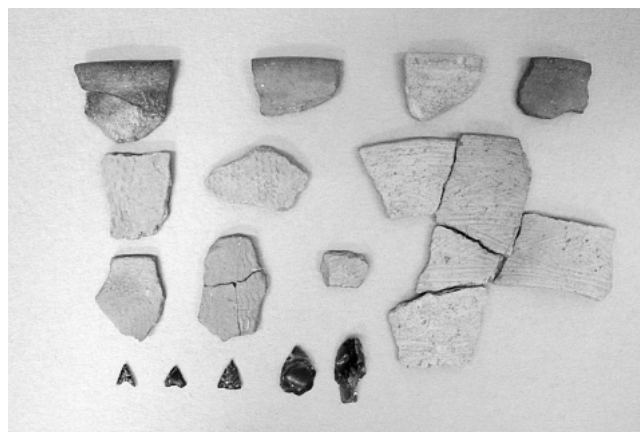
平成25年度新指定文化財

さいたま市教育委員会は、平成26年3月31日付けで、「おおたすわじんじやほんでん太田諏訪神社本殿」と「いなりはらいせきしゆつ稲荷原遺跡出土どじょうもんじだいそうきどきおよ縄文時代早期土器及び石器せつき」の指定を行いました。

これにより、市内に所在する市指定文化財は444件、国・県指定を含めた総件数は527件となります。また、この他に、市内には6件の国登録有形文化財があります。(平成26年4月1日現在)



▲太田諏訪神社本殿



▲稲荷原遺跡出土縄文時代早期土器及び石器

●さいたま市の新指定文化財(平成25年度)

種別	名称	員数	所在地	所有者
有形文化財 (建造物)	太田諏訪神社本殿	1棟	さいたま市岩槻区太田1丁目 10番59号	宗教法人 諏訪神社
有形文化財 (考古資料)	稲荷原遺跡出土縄文時代 早期土器及び石器	撚糸文系土器 86点 沈線文系土器 33点 押型文系土器 22点 (うち1点無文土器) 石鏃 9点 剥片石器 9点	さいたま市大宮区高鼻町2丁目 1番地2(さいたま市立博物館)	さいたま市

新指定

有形文化財(建造物) 太田諏訪神社本殿

太田諏訪神社は、さいたま市岩槻区太田1丁目に所在しています。この付近は、江戸時代には岩槻城の大手門外に広がる「郭内」武家地として、家臣団の武家屋敷ゾーンでした。

創建を直接物語る史料はありませんが、江戸時代前期の城主阿部正次が勧請したとも伝えられています。阿部正次は、元和9年(1623)に相模國小田原(神奈川県小田原市)から移封されて城主となった徳川譜代の大名で、正次に始まる城主阿部家は、天和元年(1681)に丹後国宮津(京都府宮津市)に移封となるまで岩槻城主でした。

史料上の所見は、寛永16年(1639)の「東原地清左衛門分年貢可納割付」(原田家文書)に見える小名「すわ下」が最も古く、この「すわ下」は、近代においても当社東側の低地一帯の小字「諏訪下」として継承されています。諏訪社の存在を前提とした地名であり、遅くとも寛永16年までには当社が鎮座していたことがうかがわれます。

また、当社は岩槻城主や城下町の展開とも密接な関係がありました。例えば、元禄6年(1693)に当時の城主松平忠周が初めて岩槻城に入部した際、家臣を遣わして奉幣した4社の内に「諏訪明神」(諏訪神社)がありました。また、当社の別当寺正福寺(明治初期に廃寺)は、岩槻城主の様々な祈祷を行う祈祷寺でした。さらに、参道が面する街路は、江戸時代には諏訪小路と呼ばれ、これは当社の存在に因んでおり、岩槻城下町における武家地再編とも関わることもうかがわれます。

本殿は一間社流造で、屋根は翺葺です。井桁状の土台上に立ち、身舎柱は円柱、前面一間の向拝柱は角柱です。木鼻等に見られる絵様の渦は、ほぼ正円に近い形で下から巻きあがっており、これは、寛永期頃の特徴をよく残しています。

向拝中備の臺股が雲状のものに取り替えられるなど、数度の修理が加えられていますが、明治25年(1892)に雨屋を瓦葺に葺き替えた記録があり、古くから覆屋に納められていたと考えられ、良好な状態で保存されています。現在は、鉄筋コンクリート造の覆屋の中に納められています。

この本殿は、17世紀前半の建築的特徴をよく残しており、さいたま市域における神社建築の展開や地域相を明らかにする上で、貴重な遺構といえます。また、岩槻城に関わる建築で江戸時代前期に遡る遺構は極めて乏しく、この本殿はその数少ない現存遺構である可能性が高いものです。

以上のことから、市指定有形文化財(建造物)として指定されました。



▲渦の絵様

新指定

有形文化財(考古資料) 稲荷原遺跡出土縄文時代早期土器及び石器

本資料は、稲荷原遺跡(さいたま市見沼区春岡3丁目地内)において、昭和39年(1964)に発掘調査を行った際に出土した縄文時代早期、中期、後期土器、及び土師器、須恵器など約2,300点を超える資料のうち、過半数を占める縄文時代早期の土器群、及びそれらに伴って出土した石器群です。

縄文時代早期の土器群は、撚糸文系土器、沈線文系土器及び押型文系土器の3群からなります。

撚糸文系土器は、全て深鉢形土器の破片で、部位は口縁部、胴部及び底部です。この中で最も特徴的な土器は、口縁部が無文で、以下に粒の粗い撚糸文が浅く施文される一群です。これらの撚糸文系土器は、施文文様、製作技法等の詳細な観察に加え、東関東地域に分布域を持つ「花輪台式土器」及び南関東地域に主な分布域を持つ「大浦山式土器」等周辺地域の資料との比較検討の後、縄文時代早期撚糸文系土器終末期に位置付けられ

る特徴的な資料として、「稲荷原式」という土器型式名が提唱されました。沈線文系土器は、三戸式の範疇に含まれ、本資料をもってその初期段階に位置する一群として、「稲荷原型三戸式土器」とも呼称されています。押型文系土器は、縦方向、横方向に施文された山形文が施文される破片が多数を占め、他に楕円文、格子目文が施文される土器も含まれます。また、一点のみですが、重層山形文を特徴とする日計式土器が報告されています。

石器は、石鏃^{せきぞく}と剥片石器^{はくへんせつぎ}です。石鏃は、薄い剥片を加工した小型の三角形鏃もあります。石材は、黒曜石が圧倒的で、他に珪岩^{けいがん}を素材とするものがあります。

本資料は、市域だけでなく関東地方における縄文時代早期の文化を理解する基礎資料として、貴重な資料です。特に、捺糸文系土器は、遺跡の名称をとって稲荷原式土器という土器型式名が提唱された標式資料であり、極めて貴重な資料です。

以上により、市指定有形文化財(考古資料)として指定されました。

●さいたま市の指定文化財の解除(平成25年度)

種別	名称	員数	所在地	所有者	理由
有形文化財 (工芸品)	甲冑	1領	—	個人	市外移転
天然記念物	センダンバノボダイジュ	1株	さいたま市緑区大字 大崎2378番地	宗教法人 國昌寺	枯死

TOPICS

●さいたま市新指定文化財の指定書交付式を行いました。

平成26年3月31日付けで指定した新指定の文化財について、指定書交付式を4月28日(月)にさいたま市役所9階応接室で行いました。

福島からこんにちは

～東日本大震災復旧・復興支援派遣職員レポート

(平成26年度・第1回)～

東日本大震災に係る復旧・復興事業支援のため、平成24年10月からの半年間に引き続いて、再度、平成26年4月より福島県の埋蔵文化財保護業務に従事しています。今回、この応援のために、全国各地から福島県教育庁には、私(妹尾)も含めて7名の派遣者がいます。主な業務の内容としては、ほ場整備や海岸防災林造成のための土取り場、道路建設予定地などにおける遺跡の分布調査、試掘・確認調査などの他に、南相馬市をはじめとした市町村に対する技術協力等があげられます。

被災した地域を1年ぶりに訪れた際の印象ですが、津波によって流されてしまった家屋の跡地などが多く残されている状況を目にして、少しでも早く復旧・復興を進める必要があると改めて感じました。

地元の方々は、地域の文化について深い愛着を持っており、ふるさとの歴史がよみがえることにも関心を寄せています。こうしたこともふまえて、復旧・復興促進の支援への取組みを続けてまいりたいと思います。



▲南相馬市原町区の脇遺跡確認調査

(文化財保護課 埋蔵文化財係 主査 妹尾 聡)

さいたま市内指定文化財等公開カレンダー 平成26年7月から9月

市内で開催されるお祭りに指定文化財が参加するほか、「見沼通船堀閘門開閉実演」や「最新出土品展」を文化財保護課主催で予定していますので、ぜひお出かけください。見学や公開に関する詳しい内容は、さいたま市ホームページをご覧ください。文化財保護課(048-829-1723)までお問い合わせください。天候によっては、中止や延期の場合があります。

	名 称	日 時 ・ 場 所 ・ 内 容
1	秋葉ささら獅子舞	7月12日(土) 10時から 秋葉神社(西区中釘818)・永昌寺(西区中釘1699) 10時に中釘自治会館を出発し、11時50分頃秋葉神社境内で獅子舞を披露します。また、16時より永昌寺三尺坊でも披露します。
2	宿の祭ばやし	7月12日(土) 13時30分から 大久保神社(桜区宿69) 五人囃子の演奏のもと、大久保神社を出発し、宿地区を神輿と共に巡ります。祭りの終盤には、塚本、五関の屋台車と競演があります。
3	神田の祭りばやし	7月12日(土) 14時30分から 八雲神社(桜区神田550) 江戸神田囃子の系統の五人囃子で、八雲神社から神輿とともに、月読社をはじめ神田地区内を巡行します。
4	田島の獅子舞	7月12日(土) 16時から 田島氷川社(桜区田島4-12-1) 3頭の獅子が笛の音にあわせ、太鼓を打ちながら優美に舞います。
5	駒形の祭ばやし	7月13日(日) 12時から 須賀神社(緑区中尾1430-3) 須賀神社を出発し、駒形地区を神輿とともに巡ります。宵山(前日の夜)にはお囃子のほか、オカメ・ヒョットコや獅子舞も披露されます。
6	浦和まつり	7月20日(日) 14時40分から 中山道浦和宿(浦和区仲町他) 浦和木遣保存会が、木遣歌を歌いながら、旧中山道を八雲神社から調神社まで纏をふって歩きます。駒形の祭ばやし、宿の祭ばやし、神田の祭りばやしが各屋台車で披露します。また、「仲町獅子王祭獅子頭」を仲町御酒所にて公開します。 ※お問い合わせ (社)さいたま観光国際協会(☎048-647-8338)
7	砂の万灯	7月20日(日) 16時から 八雲神社(見沼区東大宮1-13-9) 7組の万灯組が、悪疫退散等を祈願して各組の万灯を境内に並べます。夕方から万灯は点燈され、違う印象が楽しめます。
8	氷川女體神社の名越祓え	7月31日(休) 15時から 氷川女體神社(緑区宮本2-17-1) 悪疫退散、健康を祈願する夏越しの行事で、人型に切った紙を川へ流し、穢れを取り除いた後、マコモで作った大きな輪を歩いてくぐります。
9	指扇の餅搗き踊り	8月23日(土) 17時30分から 滝沼川第2遊水地(西区指扇4406) かつて指扇地区内の家の庭で行われた餅搗き踊りです。曲芸のような動作をしながら餅を搗く「曲搗き」等を披露します。
10	見沼通船堀閘門開閉実演	8月27日(水) 第1回10時から 第2回13時から(それぞれ1時間半程度) 見沼通船堀東縁閘門 一の関・二の関(緑区大間木、下山口新田) 国史跡「見沼通船堀」の東縁で実際に水位を調節し、船を浮かべます。「見沼通船舟歌」(市指定無形民俗文化財)を踊りとともに公開します。
11	太田諏訪神社本殿	8月27日(水) 10時から17時ごろ 諏訪神社(岩槻区太田1-10-59) 地元のお祭りに際し、覆屋の扉が開かれ、「太田諏訪神社本殿」が公開されます。
12	岩槻の古式土俵入り(笹久保地区)	9月15日(月・祝) 15時から 篠岡八幡大神社(岩槻区笹久保810) 幼稚園から小学生までの子どもたちが、化粧回しを身につけ、古くから伝わる土俵入りの型を演じます。子どもの健康、安全を祈願して行います。
13	最新出土品展	平成25年度を中心に市内各所で発掘した出土品や、調査の様子を展示します。(9月から12月にかけて、市内の博物館・図書館等で巡回展示します。) 9月9日(火)～9月21日(日) 9時～16時30分 さいたま市立博物館